鳥取県地域医療支援センター 広報誌　2020 / Autumn vol.05

DOCトリ!

鳥取の地域医療を考えるマガジン　ードクトリ！ー

特集1　わたしのまちのDOCトリ！

大山町国民健康保険大山診療所 所長
朴 大昊 先生

特集2　理解しよう！ 地域医療の未来を救う

鳥取県の医師確保に向けた取り組み

DOCトリ!
第5号　2020年11月発行　鳥取県地域医療支援センター

※本誌掲載の写真、図版、記事などの無断転載を禁じます。

鳥取県地域医療支援センターからのお知らせ

NEWS 1

鳥取県内43病院の医師数は足りている？

2020（令和2）年の『医師数調査結果』が出ました

鳥取県では、県内病院において必要としている医師数の現状を把握し今後の施策に生かすため、毎年1月1日現在で「医師数に関する調査」を実施しています。

「必要数」とは、現行の診療体制を基本とした上で、各病院が令和2年4月1日に必要としている医師数です。

「現員数」は令和2年1月1日現在の医師数で、初期臨床研修医を除いています。

鳥取県全体

必要数 1,373.0人

現員数 1,137.4人　不足数 235.6人

充足率 82.8%

県内全域で医師数は不足

東部保健医療圏（14病院）

必要数 447.8人

現員数 347.4人　不足数 100.4人

充足率 77.6%

中部保健医療圏（10病院）

必要数 196.5人

現員数 135.1人　不足数 61.4人

充足率 68.8%

西部保健医療圏（鳥大病院を除く18病院）

必要数 332.6人

現員数 283.6人　不足数 49.0人

充足率 85.3%

鳥大病院

必要数 396.1人

現員数 371.3人　不足数 24.8人

充足率 93.7%

鳥取県地域医療支援センターについて

鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県・鳥取大学医学部附属病院が連携し、鳥取県の地域医療の充実・発展のために2013（平成25）年1月に設置されました。私たちは、鳥取県の医師不足解消のために、地域枠などの医師のキャリア形成支援や医師の地域偏在解消に取り組んでいます。専任医師も勤務しており、皆さまのご相談などを伺っています。

ご相談やお問い合わせはこちらまで

鳥取県の医療・奨学金制度に関すること
鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857-26-7195　FAX 0857-21-3048

医師のキャリア形成・相談に関すること
鳥取大学医学部附属病院 鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006

とっとりドクター Naviの配信を始めました

鳥取県の地域医療に関心をお持ちの全国の高校生・医学生・研修医の皆さまに向けて県内の医療情報や勤務に関する情報、医師としてのスキルアップに役立つ情報をメールでお届けします。どなたでもご登録いただけます。

ご登録いただいた方には、『DOCトリ!』を毎号お届けします！

「とっとりドクターNavi」ご登録住所の確認について

とっとりドクター Navi登録者の皆さまにおかれまして、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更がございましたら、お手数ですが鳥取県地域医療支援センター（本ページ末尾）までご連絡をお願いいたします。なお、ご登録情報の変更については、鳥取県医療政策課ホームページの登録申込フォームでも承っております。

とっとりドクター Navi
登録申込フォーム ▸▸▸
https://www.pref.tottori.lg.jp/273080.htm

広報誌名『DOCトリ！』の由来

「DOCTOR」と「鳥取県」を合わせた造語です。医師の皆さんに、鳥取県で活躍してほしいという願いが込められています。

編集発行　**鳥取県地域医療支援センター**
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1（鳥取大学医学部附属病院内）　TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006
Eメール t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp　ホームページ http://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/t-chiikicen/

□ 制作／有限会社キーワード　〒680-0051 鳥取県鳥取市若桜町39 ロゴス文化会館1F　TEL 0857-29-4018

特集1
わたしのまちのDOCトリ!
File No.4

大山町国民健康保険大山診療所
所長
朴 大昊（ぱく てほ）先生

素直に患者のためを思う それが地域医療最大の魅力

他人以上友達未満、患者と医師はそういう微妙な関係性といえる。でも丸ごと診てよく知っているから、医師にとって患者は“幸せでいてほしい人”だ。その思いを胸に、今日も患者と真っ直ぐ向き合う。

医療&教育の担い手として

地域の診療所に常勤医がおらず、安心して医療にかかることができない。西伯郡大山町にある大山診療所の近隣住民たちは、10年以上そんな悩みを抱えていた。鳥大病院の医師が日替わりで診察に来ていたが、「相談しづらい」「子どもの診察や看取りをしてもらえない」等、思うように頼れない状態。そんな診療所に新しい風が吹き込んだのは昨年4月のこと。待望の常勤医として、朴大昊医師がやって来たのだ。

「総合診療医は、患者さん自身はもちろん、一緒に暮らす家族や生活環境、仕事、どのような将来を望んでいるのかまで追いかけながら多面的に診るのが一番の強み。薬や検査に頼るだけでなく、患者さんが自分らしく、生きがいを感じながら暮らしていくためにはどういう医療を選択すべきか、常に考えています」。だから雑談を交えながら、体調や日常生活の様子を丁寧に聞き取る。気さくで明るい人柄につられて患者もつい冗舌に。診察室はいつもにぎやかだ。

大山診療所は、「鳥取大学家庭医療教育ステーション」として医学生を教育する役割も担っている。「地域医療の質を上げるには仲間をもっと増やさなければ」と思うからこそ、忙しい診療と並行して臨床実習生を指導するという、決して楽ではないこの役目を引き受けた。積極的な学びを促し、意見を交わし、地域医療の重要性や魅力を理解してほしいと力を尽くす。

▲明るく広々としていて、杖や車いすでも入りやすい待合室。

世界を知って地域が見えた

そんな朴医師、実は学生時代はあまり地域医療に興味がなかったという。国際医療に関心があり、幾度も海外の機関へ研修に出かけた。アフリカの途上国に医療を提供するNGOでは、灼熱のサハラ砂漠を越えて無医村へ。病に悩む村人たちが相談に押し寄せ、活動の大事さを痛感した。またWHO（世界保健機関）では、ある地域で蔓延している病気を根絶する医療政策について話し合うといった、まさに理想の仕事を体験。しかし「カッコいい！」と思う反面、小ぎれいなオフィスで大きな政策が決められることに違和感を覚えた。「規模の大小はあっても、例えば小さな村全体の医療に取り組むことも、国際医療とそう変わらないのではないか」。

そんな気付きから、大学卒業後に選んだ臨床研修先は沖縄の病院。研修後2年は離島の診療所に勤務するコースだった。「島の皆さんと少しずつ信頼関係を築きながら、島全体の医療を考えることが面白かった。関係性ができた中でやる医療は、〝友達のため

研修にやって来た医学生に寄り添い、採血の仕方を指導する朴医師。診察終了後はディスカッションして学びを深めている。▶

に頑張っている〟気分ですごく心地いいんです」。地域医療の本質に一歩近づいた経験だった。

みんなで理想の医療を築く

大山町の医療はこれからが大事な時期、と朴医師は言う。「僕が来たことを住民の皆さんはすごく喜んでくれたけど、医師に全部依存すればいいわけではない」。昨年7月に「地域医療を考える会」を起ち上げ、今の医療体制を活用しながら、将来この地域にどうなっていってほしいのか、そのためにはどんな仕組みがあればいいのか、地域全体で継続的に話し合っているという。

その提案の一つとして、今年8月から待合室の一角にサロンを開設した。週1回、気軽に立ち寄って健康の悩みや他愛のないおしゃべりをすることで、医療だけでは解決しない健康づくりにアプローチするというものだ。さらに次なる展開も構想中で、「運転免許証を返納して、自由に出かけられない高齢者が多い。それならいっそ医療者が集落の集会所へ出て行こうというアイデアが出ています」と朴医師。新しい風にのって、この地域の医療は確実に進化している。

1984年　静岡県浜松市生まれ
2010年　鳥取大学医学部医学科 卒業
2010年　沖縄県立中部病院 プライマリ・ケア（島医者養成）コース
2013年　沖縄県立八重山病院 附属波照間診療所 所長
2015年　鳥取大学医学部地域医療学講座 助教
2019年　大山町国民健康保険大山診療所 所長
　　鳥取大学医学部地域医療学講座 プロジェクト研究員

【専　門】家庭医療／プライマリ・ケア
【資格等】日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医・指導医
【趣　味】海外旅行／ラグビー観戦

爽やかな大山高原の美景

わたしの鳥取LIFE!

町内のどこに行っても景色がいいのが大山町の魅力。診療所の近く、なだらかな山麓に広がる田んぼでは、夏は稲の緑がまぶしく、冬は真っ白な雪景色が最高にきれい。天気のいい日はその向こうに日本海も見えて、開放感あふれる大パノラマになります。

また、大山観光の拠点「博労座（ばくろうざ）」では、空にそびえ立つような雄々しい大山北壁が。崇高な美しさに心が洗われるようです。

鳥取県の 医師確保に向けた取り組み

理解しよう！地域医療の未来を救う

鳥取県では、医師の数を増やすため様々な施策に取り組んでいます。
直近の状況を分析しながら、今年度から新たに始まる計画をご紹介します。

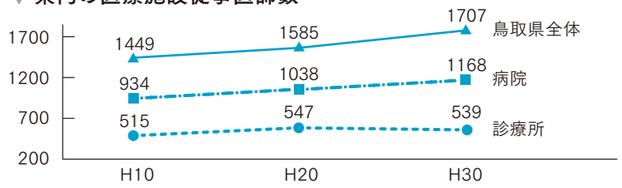
まずは県内の医師数をいろいろな角度から見てみましょう

現在の医師数は？

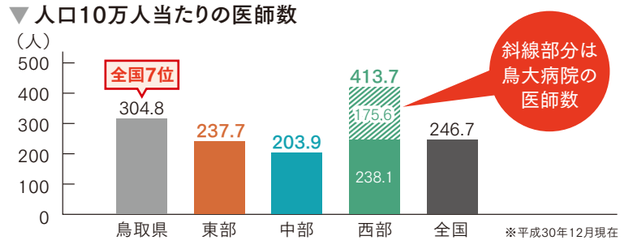
増加傾向ながら、医療体制の弱い地域も

鳥取県内の医師数はこの10年で100人以上増加しています。
医療施設ごとの状況では、病院勤務の医師数は増加傾向ですが、診療所勤務の医師数は横ばいです。
また、全国的に見ると、人口10万人当たりの医師数は全国7位となっています。
しかし、鳥取県医師数調査では、県内全ての圏域において医師は不足している状況であり、特に中部、東部は10万人当たりの医師数が全国平均を下回るなど、地域医療の現場における医師の不足感は強いといえます。

▼県内の医療施設従事医師数



▼人口10万人当たりの医師数

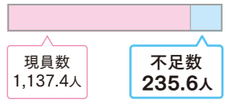


県内43病院の医師数は足りている？

充足率は約8割 県全域で医師不足

全国的に医師数が不足しており、なかでも地方はその傾向が顕著です。
今年度の鳥取県医師数調査でも、鳥取県内43病院が必要とする医師数1373人に対して充足率は8割、約240人の医師が不足しているという結果が出ました。
また、多くの診療科で医師が不足しています。

▼鳥取県全体の医師数



※詳細は裏表紙のセンターからのお知らせをご覧ください

充足率 82.8%

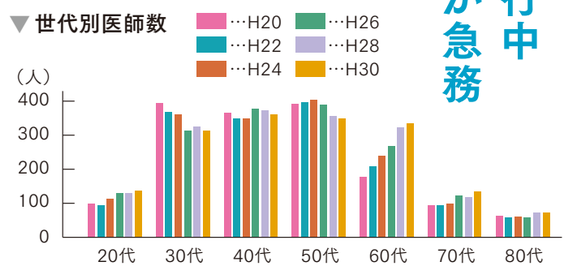
県内全域で医師数は不足

医師の平均年齢は？

高齢化が進行中 若手の定着が急務

この10年間で60代が大きく増加、逆に30代は2割減少。平均年齢も、10年前の「49.2歳」から「51.7歳」と高齢化が進んでいます。
20代は地域枠等医師確保の取り組みにより増加傾向ですが、より一層の若手医師の養成・確保が必要です。

▼世代別医師数

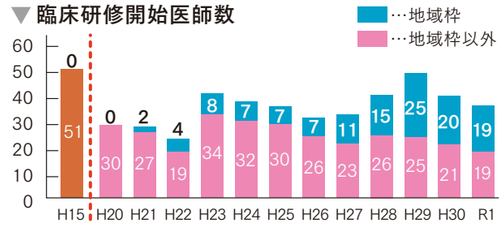


臨床研修開始医師数は？

地道な取り組みにより臨床研修医が増加

平成16年度に新医師臨床研修制度が導入されて以降、県内で臨床研修を開始する医師の数は平成22年度まで減少が続いていましたが、地域枠等医師確保の取り組みによってその後増加しました。
直近3年間の平均医師数は、43人となっています。

▼臨床研修開始医師数

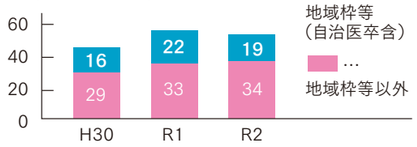


専門研修開始医師数は？

新制度が始まり3年

平成30年度から新専門医制度が始まり、県内で専門研修を開始した医師は平均51人です。臨床研修修了後、鳥取県内で専門研修を行う医師確保のため、今後も若手医師の定着に向けた取り組みが求められます。

▼専門研修開始医師数



今後の取り組みは？

「鳥取県医師確保計画」策定！

新たに令和2～5年度まで4年間の計画を策定しました。
今までの取り組みを継続・強化しながら、若手医師の養成・確保、個々のキャリア形成支援、勤務環境改善等により県内定着を促進し、医師数の増加を目指します。

① 若手医師を養成します

- 奨学金の貸与
- 医師（自治医卒・特別養成枠）の自治体立病院等への派遣
- 医療情報等の発信（広報誌・メールマガジン・HP等）
- 地域医療に貢献する人材の育成
- 地域医療体験研修の実施

② キャリアアップを支援します

- 支援センターによるキャリア形成支援・相談
- 研修会・交流会等の実施
- 女性医師の就業・復職支援

③ 働きやすい環境をつくります

- 医療機関の勤務環境改善支援
- 医療クラークの設置推進
- へき地医療機関への代診医派遣

東部エリア

鳥取生協病院

患者の人権を尊重し、心に寄り添って
求められる最善の医療に努める病院です。

鳥取生協病院は、全国で初めて設立された生協病院です。
「いのちは平等である」「いつでも、どこでも、だれでも、必要なときに必要な医療を受けられる」という無差別・平等の医療を目指し、経済的困難を抱える方々を対象に無料低額診療事業を実施し、差額ベッド料は頂かないなど、誰もが安心してより良い医療や福祉を受けられるように取り組んでいます。
ジェネラリストを目指す人もスペシャリストを目指す人も、地域に密着した研修を望まれる研修医を、確かな理念と経験豊かなスタッフと共にお待ちしております。

病院の特徴

- 鳥取市の中心部に位置する260床の中規模病院。
- 救急医療、急性期医療、亜急性期医療（地域包括ケア、回復期リハビリ）、緩和ケア、在宅医療に至るまで、コンパクトながら一貫した医療を行っている。
- 医療療養病床を中心とした「鹿野温泉病院」、高齢者の多い山間部の医療を担う「わかさ生協診療所」、訪問診療に特化した「すえひろ生協診療所」もあり、地域医療にも注力している。

臨床研修病院

鳥取県で医師になろう！

臨床医に義務付けられている2年間の臨床研修。鳥取県内では8つの指定病院で研修を行っています。
その病院を毎号2つずつピックアップ！自分に合った病院を探す参考にしてください。

西部エリア	中部エリア	東部エリア
鳥取大学医学部附属病院	鳥取県立厚生病院	鳥取県立中央病院
山陰労災病院		鳥取赤十字病院
米子医療センター		鳥取市立病院
鳥取県内に全8病院！		鳥取生協病院

研修プログラムの特徴

- 県内外の協力病院・施設と連携した研修プログラム。研修医の要望や達成度に合わせてカスタマイズも可能。
- どんな分野で働く場合にも共通する基本的な臨床能力、各分野のプライマリ・ケアと救急対応能力の習得。
- 「地域まるごと健康づくり」に貢献できる、総合性と専門性をバランスよく兼ね備えた医師を養成する。
- 患者の問題を多職種と連携してチームで解決する視点を身に付けることができる。
- 1つの医局で全科の医師が日常的に顔を合わせ、連携して研修指導を行う。
- 病棟研修だけでなく、在宅医療や診療所を含む幅広いフィールドで研修を行うことで、豊富な症例を経験。

研修スケジュール例

1年次	内科 28週以上		救急 8〜12週		外科 4週
2年次	小児科 4週	産婦人科 4週	精神科 4週	地域医療 4週	選択科 32週

指導医に聞きました！

医療・患者に向き合う病院全体の真摯な姿勢に“学び”がある！

診療部長
大廻（おおさこ）あゆみ 先生
消化器内科

症例の多彩さ、他科や多職種との連携の取りやすさ、そして、伝統的に病院の根底に流れる「まるごと人をみる」姿勢、それこそが当院の魅力です。研修医たちの目もキラキラと輝いています。
信じるのは先輩やネットの情報ではありません。あなたの五感と直感です。ぜひ見学に来て、言葉では到底伝えきれない魅力をあなたの肌で感じてみてください。
指導医をはじめ病院スタッフ全員で熱くあなたをお待ちしています！

初期研修医に聞きました！

症例・手技等が存分に学べる上、相談もしやすい絶好の環境。

研修医2年目
加藤（かとう） 一暁（かずあき） 先生
鳥取大学出身

鳥取生協病院には中規模病院ならではの良さがあります。
研修医が少ないため、指導医の先生方が研修医のことをよく把握しておられ、診たい症例、やりたい手技等があれば、研修中でない科の先生に声をかけていただけるので、とてもありがたいです。医局が1つなので医師全員が1つの部屋におり、コンサルトが非常にしやすいのも利点です。
また、県内外に多数の協力病院があり、自分が学びたいことをその診療科に強い病院で行うことができるのは魅力の一つです。

病院データ

病床数	260床（うち一般106床）
医師数	26名
指導医数	18名
研修医数	1年次：1名、2年次：2名
入院患者数	1日平均244.5名（R1年度）
外来患者数	1日平均252.1名（R1年度）

お問い合わせ／応募連絡先

担当部署　鳥取生協病院 医師臨床研修室
所在地　〒680-0833 鳥取県鳥取市末広温泉町458
TEL・FAX　TEL.0857-24-7251　FAX.0857-26-1393
E-mail　kensyu@med-seikyo.or.jp
WEBサイト　http://www.med-seikyo.or.jp/

西部エリア

鳥取大学医学部附属病院

国立大学病院として、地域と共に歩み、高度な医療を提供する病院を目指します。

本院は鳥取県西部地域に位置し、鳥取県唯一の国立大学病院、そして特定機能病院です。大学病院の責務である、日々進歩する医療を担い、社会や地域が求める「安全で安心な高度の医療」を提供し続けることを目標としています。

医師418名、看護師920名、薬剤師52名、管理栄養士10名、診療放射線技師41名、リハビリ療法士28名、臨床検査技師53名、臨床工学技士22名、臨床心理士6名、その他コメディカル33名、看護助手66名、事務系職員258名、その他44名と、様々な職種の職員が連携し、地元はもちろん、県全域・県外から来られる患者さんへ医療を提供しています。

病院の特徴

- 組織横断的な診療体制を確立した低侵襲外科センター。
- 褥瘡チーム、精神科リエゾンチーム、抗菌薬適正使用支援チーム、遺伝性乳がん・卵巣癌診療チーム等、多数の「チーム医療」。
- 本院を基地病院とした県内の医療機関との相互支援体制を確立し、高度医療をより広域の重症患者に提供することを可能にした「鳥取県ドクターヘリ」。

病院データ

病床数	697床		
医師数	418名	指導医数	220名
研修医数	1年次：13名、2年次：18名 歯科：1名		
入院患者数	1日平均622.17人（R1年度）		
外来患者数	1日平均1490.05名（R1年度）		

お問い合わせ／応募連絡先

担当部署	鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター
所在地	〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL・FAX	TEL.0859-38-7025　FAX.0859-38-6974
E-mail	jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp
WEBサイト	http://sotsugo.med.tottori-u.ac.jp/

研修スケジュール例

プログラムは合計8つあります。詳細は卒後臨床研修センターHPをご覧ください。

自由選択プログラム（研修例）　募集定員15名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	主な研修病院
1年次	オリエンテーション	必修（内科24.4週）					必修（救急13.2週、外科4.4週、小児科4.4週、産婦人科4.4週、精神科4.4週）						鳥大病院 協力型病院
2年次	必修（地域医療4.4週を含む必修科のうち、1年次未実施の研修）		必修（一般外来研修4週）	選択科39週									鳥大病院 協力型病院

外科専門プログラム　募集定員4名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	主な研修病院
1年次	オリエンテーション	外科22週				必修（外科4.4週）	必修（内科24.4週）						鳥大病院 協力型病院
2年次	必修（救急科13.2週、地域医療4.4週、小児科4.4週、産婦人科4.4週、精神科4.4週）								必修（一般外来研修4週）	選択科4.4週	外科12.8週		鳥大病院 協力型病院

山陰たすきがけプログラム　募集定員12名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	主な研修病院
1年次	オリエンテーション	必修（内科24.4週）					必修（救急13.2週、外科4.4週、小児科4.4週、産婦人科4.4週、精神科4.4週）						原則 協力型病院
2年次	必修（地域医療4.4週を含む必修科のうち、1年次未実施の研修）		必修（一般外来研修4週）	選択科39週									鳥大病院 協力型病院

指導医に聞きました！

自分に合った研修内容を選択し、将来を見据えて実力を磨こう。

卒後臨床研修センター
副センター長
山田（やまだ） 七子（ななこ） 先生
皮膚科

当院の8つのプログラムは、大きく分けて3通りあります。専門医研修を見据え、専門領域に特化した研修期間が最大限確保できる「専門領域特化型」、市中病院で1年間研修後、2年目に大学病院に帰って研修する「たすきがけ」、できるだけ様々な診療科を院内・院外で経験したい人のための「自由選択」です。自分に合ったプログラムで様々な臨床現場を経験し、大学病院でのカンファレンスや症例プレゼン、チーム医療、学会や研究会への参加など、医師としての基礎を身に付けてください。

初期研修医に聞きました！

関西と鳥取、両方で学ぶことにより対応力のある医師になりたい。

研修医2年目
生田（いくた） 健人（けんと） 先生
鳥取大学出身

私の研修プログラムは「関西たすきがけプログラム」と呼ばれ、研修1年目は関西地方の市中病院で、2年目は鳥大病院で研修するというものです。私が本プログラムを選択したのは、規模の異なる病院で研修したいと思ったからです。

本プログラムの魅力は、大学病院と市中病院の両方で経験を積むことにより、あらゆる疾患に対して幅広く学ぶことができるということです。また、関西地方の病院で人間関係を形成することも。新たな人とのつながりは将来きっと役立つはずだと思っています。

鳥取県で初期臨床研修をしませんか

鳥取県は県と県内臨床研修病院が協議会を立ち上げ、研修医のための様々な取り組みを行っています。

主な事業
- 臨床研修病院見学旅費の助成
- 研修医交流会の開催
- 臨床研修セミナーの開催

詳しくはWEBで！

お問い合わせ
鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課 医療人材確保室
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1-220　TEL.0857-26-7195　FAX.0857-21-3048　E-mail ishikakuho@pref.tottori.lg.jp

鳥取県　臨床研修

若手医師REPORT

DOCトリ！のタマゴ

「これから“DOCトリ！”になるぞ」と頑張っている先輩たちに、これまでの歩みや現在の様子を聞いちゃいました！

子どもたちの回復と成長は大きなやりがい

鳥取県立中央病院 小児科

宇山（うやま） 祥（さち） 先生

1989年　鳥取県米子市生まれ
2016年　鳥取大学医学部医学科 卒業
2016年　津山中央病院 初期臨床研修医1年目
2017年　鳥取大学医学部附属病院 初期臨床研修医2年目
2018年　鳥取大学医学部附属病院 小児科
2019年　鳥取市立病院 小児科
2020年　鳥取県立中央病院 小児科

私は、特別養成枠で鳥大医学部に入学し、特定診療科として小児科を選択し、現在専攻医3年になりました。

小児科は、「子どもの総合医」といわれるように、小児の幅広い疾患をカバーするだけでなく、予防接種や健診といった場でも地域とのつながりを強く感じられる科だと思います。病気で苦しそうだったお子さんが元気になって退院できたときや、担当しているお子さんたちが成長していく姿を見ていると大きな喜びを感じ、小児科を選んでよかったと実感します。

まだまだ未熟で学ばないといけないことばかりですが、鳥取県の小児科医療を支える人材になれるよう頑張ります。

わたしの鳥取LIFE!

緑豊かな名勝地でパワー注入！

因幡国一の宮として知られる「宇倍神社」、梅林や芝生が美しい「樗谿（おうちだに）公園」、原生林に囲まれた名瀑「雨滝」など、緑いっぱいの名所を訪れてリフレッシュしています。写真は、断崖絶壁に立つ三徳山三佛寺の国宝「投入堂」です。

医師としての力を高める大切な時間

鳥取大学医学部附属病院
初期臨床研修2年目

辻谷（つじたに） 直哉（なおや） 先生

1993年　鳥取県米子市生まれ
2019年　鳥取大学医学部医学科 卒業
2019年　鳥取大学医学部附属病院 初期臨床研修医

私は今、2年間の初期研修をさせていただいています。研修ではありがたいことに、指導医や先輩医師の丁寧な指導、日々の研修をサポートしてくださる方々の助けがあり、ストレスのない業務ができています。大学から附属病院に就職したこともあり研修医同士は見知った顔が多く、研修医室での何気ない歓談にも支えられています。

市中の病院と比較すれば同時に担当する患者数が多くなく、患者さんが抱えるプロブレムに対し向き合う時間が十分にあるため、時間をかけて地力を付けるのに向いていると感じています。臨床で学び、文献で学び、指導から学ぶ。多方向から学習することができており、3年目以降に向けて〝知らないことに向き合う姿勢〟を学んでいるように思います。

わたしの鳥取LIFE!

知れば知るほど深イイ美酒の世界

各研修科で開いていただく歓迎会で美味しいビールや日本酒と出逢い、お酒の魅力に気付いてしまいました！ 気に入ったものや、味わってみたいお酒があったら通販で購入することも。徐々に“美食の沼”にハマっているような気がしています。

1度は行くべし！

TOTTORI☆イチオシ名鑑

Enjoy Tottori life!

地元の魅力を知り尽くす謎の編集部員「SR」が、観光地とグルメを毎号1カ所ずつご紹介します。せっかくの鳥取LIFE、楽しまなきゃ損ですよ！

遊 \@Eastern/

見渡す限り砂・砂・砂！非日常が体感できる絶景空間

鳥取砂丘

東西16km、南北2.4kmに広がる海岸砂丘。高さ約47mの砂の丘「馬の背」を登りきると目の前には紺碧の日本海が！ サンドベージュとブルーのコントラストは息をのむ美しさです。全景がオレンジ色に染まる夕暮れ時や、水平線上で輝く漁火にうっとりしちゃう夜もオススメ。また、乾いた砂に毎秒5～10mの風が吹くとできる「風紋」は自然の芸術品。いずれも“映え”ます。

砂丘入口にある「鳥取砂丘ビジターセンター」では、砂丘の成り立ち、地形の特徴や砂の模様、動植物など、一見するだけでは分からない魅力を知ることができます。砂丘を歩く前に立ち寄ってみて。

山陰海岸国立公園 鳥取砂丘ビジターセンター
住 鳥取市福部町湯山2164-971
☎ 0857-22-0021
営 9：00～17：00
休 年中無休
¥ 入館無料
P あり（鳥取砂丘駐車場・有料）
JR鳥取駅から車で約20分／鳥取道鳥取ICから車で約20分

道の駅 大山恵みの里

東 \@Western/

▲大山町産ハーブチキンの唐揚げ定食（ご飯・みそ汁・小鉢・香物付き） 880円

住 西伯郡大山町名和951-6
☎ 0859-54-6030
営 道の駅／9：00～18：00（12～2月は～17：00）
レストラン／9：30～18：00（12～2月は～17：00）
定食メニューは11：00～14：00
休 12/31、1/1
P あり（無料）
山陰道名和ICから車ですぐ

ハーブで育ったヘルシー鶏の深い旨みがクセになる！

食欲をそそる色合いの唐揚げは、驚くほどやわらかくてジューシー！ 美味しさの秘密は、大山高原のきれいな水と空気の中、香草のオレガノを混ぜた飼料を食べて元気に育ったハーブチキンのもも肉を使用しているから。秘伝の特製タレに漬け込んであり、独特の優しい味わいがお口に染みわたります。何個でも食べられそう♪

食後は隣の直売所へどうぞ。レストランでも使われている減農薬・減化学肥料の特別栽培米をはじめ、朝どれ野菜や旬のフルーツ、そばや紅茶、乳製品など名産品が勢ぞろい。“大山の恵み”が堪能できますよ。